

大和屋の歴史展

180年の回顧

第壹弾・雛まつりにちなんで江戸期

第壹弾

【第一回】平成20年
2月22日(金)～3月5日(水)

雛まつりにちなんで
～江戸時代～

熊谷の江戸・明治・大正・昭和へ商家のくらしを展示

大和屋の歴史展

第貳弾

【第二回】平成20年
4月11日(金)～4月23日(水)

材木屋の昔と今

第参弾

【第三回】平成20年
6月27日(金)～7月9日(水)

商家の暮らし
～明治・大正～

会 期 【時間】午前10時～午後6時まで

【第一回】平成20年 2月22日(金)～3月5日(水)

【第二回】平成20年 4月11日(金)～4月23日(水)

【第三回】平成20年 6月27日(金)～7月9日(水)

会 場

北大通り 熊谷女子高
街の情報発信基地(オーク北口駐車場内)
R17号
JR高崎線
熊谷駅 熊谷市筑波1-29 048-521-4625

「大和屋」は「大和屋」の屋号で江戸時代(文政七年)に創業。八四年にわたり熊谷にて材木屋を営む。忍清の御用商人として地元根付き、現在に至る。

おことさん物語



大和屋3代目小源治妻
黒田 こと

皇女和宮と同世代
幕末から昭和を生きた熊谷の女傑

黒田ことは大和屋初代の孫として弘化元年2月(1844年)に熊谷宿・新宿に生まれた。時代は幕末の混沌期、飢饉や洪水などの天変地異が続き、江戸は黒船到来で大きく揺れていた。そんな中、大和屋は忍城の御用商人として、また材木商としてゆるぎない地盤を固めつつあった。

「おことさん」と親しみをこめて呼ばれたこの人は、幼いころから利発で小源治の自慢の孫娘であった。13才になると行儀見習いのためお城に上がった。忍城主・松平忠国の姫君付の奥女中として3年間の奉公である。

城主忠国は品川沖の警備で、留守がちであったが、奥向きはまだまだ平和で豊かであった。特におことは姫君のお気に入りだった。小柄なためか、何かの時には姫の予行でお籠に乗せられたり、雛遊びのお相手をしたりと、厳しい中にも楽しい日々を過ごした。奉公が終わる時には松平家よりたくさんのお土産をいただき、それを終生、宝として大切にしていた。

家にもどるとすぐに許婚・源吉との婚礼が待っていた。源吉は4才年上の偉丈夫で3代目を継ぐ人でもあった。結婚の翌年、文久元年11月には中山道は皇女和宮の將軍家降嫁の東下りがあった。その時、和宮はおことより2才年下の15才。熊谷宿は御宿となる本陣竹井家というに及ばず屋敷普請や道路整備と、宿場周辺まで前代未聞のものものしい警備と準備に明け暮れていた。当時の宿場の顔役である町衆の中でも、忍城御用をつとめる大和屋やおことにも重要なお役目があったにちがいない。

將軍家降嫁は5年後に大阪城で亡くなり、和宮は若くして寡婦となったが、明治以降の徳川家の存亡のために貢献し、31才で亡くなった。大和屋のおことは明治維新、日露戦争、関東大震災など江戸・明治・大正・昭和の四時代をたくましく生き抜いていく。3代目を襲名した夫の傍らで17年間、三男一女の母として、また大和屋ファミリーの要の大役をみごとに果たした。3代目亡き後も、93才で亡くなるまで常に大きな影響力を持ち続けた女性だった。音曲や芝居を愛し、家族の絆を大切にしながら、義を重んじ、毅然とした決断を下せる女性であったといわれる。今も残されている晩年の肖像画は誇り高く、凛とした風貌である。(H)

※今回はおことさんの肖像画や、松平家から贈られたお雛さま・雛のお籠や着物などおことさんゆかりの品々を展示します。